

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)														
ES13C002		授業分析演習(Seminar in Analysis of Teaching)					教職実践コース科目														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
必修	2	1	大学院教育学研究科	前期		氏名 河野晋也、立川研一 E-mail mori-saizou@oita-u.ac.jp ken-tatsukawa@oita-u.ac.jp 内線 森6133、立川6139															
授業の概要	・授業分析に関する理解を深め、課題を発見し、具体的な対応を立案・検討する力を養う。																				
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 授業分析技術向上のための実践的知識について深く理解する																					
目標2 学習評価の理論に関する実践的知識について深く理解する																					
目標3 学校現場の事例を題材として現状の課題を発見することができる																					
目標4 現状の課題に対する具体的な対応策を立案・検討することができる																					
目標5																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1 授業テーマに関する学校の具体的課題の理解																					
2 授業観察・記録の基本事項に関する講義																					
3 授業評価・分析の基本事項に関する講義																					
4 授業分析の事例研究 - 授業の記録方法に注目して																					
5 授業分析の事例研究 - 授業の効果測定に注目して																					
6 授業分析の事例研究 - 教育効果の総合的評価																					
7 フィールドワーク(授業観察) - 小学校における授業観察																					
8 フィールドワーク(授業観察) - 中学校における授業観察																					
9 授業評価・分析演習																					
10 授業の評価・分析演習 - 小学校の授業観察を踏まえて																					
11 授業の評価・分析演習 - 中学校の授業観察を踏まえて																					
12 評価を踏まえた授業構想に関する講義																					
13 評価結果を踏まえた授業案の作成 - 指導案の改善																					
14 評価結果を踏まえた授業案の検討 - 教育効果の予想と根拠に関する分析																					
15 学習成果の発表と総括																					
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業において設定する演習では、ペアワーク、グループワーク、討論など、アクティブラーニングの手法を取り入れ、院生同士の学びあい・相互評価を基本とし、実務家教員・研究者教員も参画したチームによる学習に取り組む。											工夫	その他							
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	次時の学習内容に関する予習および事前準備(資料収集、資料・文献精読など)(20~30h)																			
	事後学修	演習において討議したことを整理しまとめるとともに、まとめた事柄について、自己の視点と対照して、自己の学修到達点を明確にする。(10~20h)																			
教科書	特になし。授業中に指示する。																				
参考書	小学校学習指導要領(平成29年告示)、同解説 中学校学習指導要領(平成29年告示)、同解説																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10									
	複数教員による多面的・総合的評価(受講態度、課題に取り組む姿勢、討論への参加等)	70%																			
	最終レポート(本授業において学んだ事や今後解決すべき課題など)	30%																			
注意事項	・本授業においては教員集団のメンバーとしての自覚を持ち、メンタリングの観点から、経験の豊富な者は経験の少ない者の成長をサポートするよう努力すること。また、経験の少ない者は経験の豊富な者に積極的に教を請うこと。																				
備考																					
リンク	URL																				

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	立川研一：公立中学校教員・指導主事
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	なし
実務経験を いかした教 育内容	授業分析の事例研究